



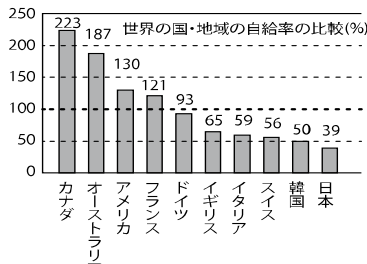
地産地消

「地産地消」という言葉を聞いたことはありますか。「地産地消」とは、「**地域**で**生産**されたものをその**地域**で**消費**する」ということを指す略語です。現在、全国各地で自治体等により「地産地消」が提唱されています。いま、なぜ、「地産地消」が必要なのでしょう。

1. 日本の食糧問題

① 自給率が低い

日本の自給率は先進国では最低水準となっています。つまり、その多くを輸入でまかっています。



農林水産省「農林水産省で試算した諸外国・地域の食糧自給率等」より
 ※ カロリーベースの自給率
 ※ 日本は平成24年、他の諸外国・地域は平成21年

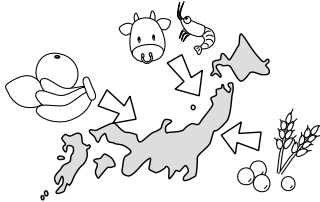
② 世界食糧価格の高騰

世界人口の増加や食料用穀物由来の燃料の需要増加などによる食糧の需要の増加、洪水や干ばつなどによる供給の減少により、食糧価格は高騰し始めています。



③ 輸出国の輸出減少

現在の輸出国で食糧が足りなくなったとき、まずは、自国の供給を優先し、国外への食糧輸出を抑えることが考えられています。



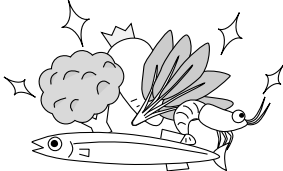
④ 日本国内での担い手の減少

輸入量が減れば、日本では、国内生産で食糧供給をまかなわなければならないのですが、生産に従事する者が減少している現状ではそれが難しいです。



そこで、「地産地消」により国内生産を盛り上げる必要があるのです。

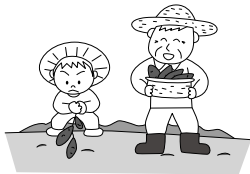
2. 地産地消による消費者のメリット



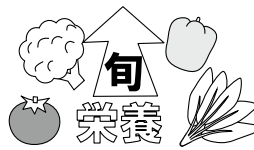
新鮮で安心な食材を買うことができる



生産者の顔が見えて安心である



生産者との交流ができる



おいしくて、栄養価が高く、安価な「旬」を知ることができる

3. 地産地消による生産者のメリット



新鮮で栄養価の損なわれない食材を提供できる



規格外のもので販売できるため、無駄が減る



流通コストが安くなる



生産者に対する理解や興味が深まる



生産者のニーズを知ることができ、生産意欲が高まる